

新高山

— 里山の自然 —

NIITAKAYAMA nature trail guide



新高山から沼田川を望む



新高山城跡・高山城跡



ツメレンゲ



ごみは必ず持ち帰りましょう

自然を見つめて

～新高山は歴史と未来への生き証人～

◆ 新高山と新高山城跡 ◆

沼田本郷は古(いにしえ)から栄え、古墳・山城跡・寺社・山河、交通の要衝となる橋や道路等、生活に密着した「ふる里」そのものの凝縮です。

その沼田本郷の中心を流れる沼田川を挟んでそびえる高山と新高山には、東側に小早川茂平が築造したといわれる高山城跡、西側には小早川隆景が築造した新高山城跡(共に国指定史跡)があります。

やさしく蛇行する沼田川の流れる先にある瀬戸内海が望める新高山城は、標高197.6m、城の縄張り東西400mで本丸、中の丸、西の丸、北の丸、釣井の段、鐘の段、番所跡など中世から近世への移行期の特徴を保ち、日本三大山城(岐阜城・春日山城)の一つとして知られています。



新高山城跡 本丸

◆ 新高山の地形概観 ◆

新高山の中腹(約120m)より上部は、粗粒花崗岩(石英・長石・黒雲母の粒が5ミリ以上)が露出し、南斜面は、かなり風化が進み、崩れやすくなっている箇所も多くあり十分な注意が必要です。東斜面は急峻(きゅうしゅん)な懸崖(けんがい)が立てるが如く迫り、とても接近は困難で登るには難しく危険です。



中腹より下部は、小さい岩石が散在していますが、ほとんどが花崗岩が風化してできた土壌で、その上に腐葉土(ふようど)が覆っています。なお、匡真寺(菩提寺)跡の東側に小さい谷があり、細い泉が流れています。



◆ 交通 ◆

○JR本郷駅:
駅から麓の城跡登山者駐車場まで1.75km
○バス本郷橋停留所:
三原駅～広島バスセンターのやっさ号本郷橋停留所より1km

◎できるだけ、公共交通機関を利用しましょう。

●バス時刻の問い合わせ先
芸陽バス(株)三原営業所
TEL.0848-62-6241

●協力 半田靖夫(沼田文化研究会会長)
新高山城跡を守る会
●発行 三原市生活環境部 環境政策課
〒723-8601 三原市港町3丁目5番1号
電話0848-67-6184 FAX0848-67-6189
E-mail Kankyoseisaku@city.mihara.hiroshima.jp

PRINTED WITH
SOY INK.
再生紙を使用しています
2008.4 10000



エノキ(にれ科)

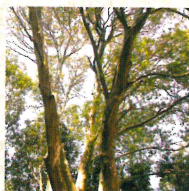
■城郭北側の大手門跡には、エノキの大木【胸高幹囲(地上高1.3mのところを測ります。)1.75m】があり、この木にはヤマフジ・テイカカズラ・サネカズラ等が、がんじがらめに巻きついてます。この木の下には、箭跡(やあと)が残った石垣があり、往古が偲べれます。



クヌギ(ぶな科)



コナラ(ぶな科)



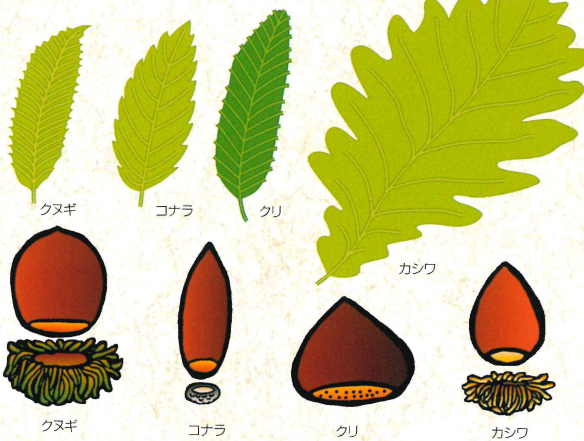
ナナミノキ(もちのき科)

■クヌギ(ぶな科) 樹皮は硬く灰褐色で、深い溝状の裂け目ができ、材は良質な炭となります。

■コナラ(ぶな科) どんぐりの実で有名。雑木林を代表する樹木で、秋は味わい深く紅葉し、しいたけのほだ木に最も適しています。

■ナナミノキ(もちのき科) 深い緑の葉は四季を通して変化がありませんが、秋から冬にかけて、美しい赤い実を付け、大気汚染に強く、木の皮からとりもちを取るため「モチノキ」の名もあります。

葉の形とどんぐり



クヌギ

コナラ

クリ

カシワ

クヌギ

コナラ

クリ

カシワ

「自然保護憲章」

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう
自然に学び、自然の調和をそこなないようにしよう
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう

ようこそ 魅力いっぱい ～新高山～



リュウノウギク

古の 優しい 空間



観察会のようす

三原市本郷町は、沼田文化発祥の地といわれる沼田川を中心に古代から交通の要衝、経済の中心地として発展し、町内には多くの古墳や史跡等があります。このような沼田本郷を見下ろす位置にある新高山は、歴史的に重要な役割を果たしてきており、土器などの出土も見られ、中世においては新高山城築城により、この時代の歴史の主演を演じ、山と人との関わりが強まる一方、変化にとんだ自然環境と温暖な気候の中で、緑豊かな里山の自然を育てています。

◎新高山の魅力・不思議発見

春は「ヤマザクラとツツジたちの花競演」、初夏にかけては、「岩に松毬（マツボックリ）が落ちていると思うツメレンゲ」、「地面から木の葉が「によきによき」のヒトツバ」。夏から秋には、「里山に咲く草花にふわふわ漂う蝶々たち」、「芸術的な幾何学模様のキャンパスには、恐ろしくきれいな衣装を身に着けたジョロウ蜘蛛」。

晩秋には「色とりどりに紅葉した木々の間から、競うように色づく木の実」、「思わずうっとり、こんなところにも可憐な花が」、「クヌギ・コナラ・ツブラジイ等、いろんな種類の堅果（どんぐり）ころころ、食べられるのもあるよ」。

冬には「兵（つわもの）どもの夢のあとが偲ばれる静かな山容」、春夏秋冬に「ばっちり溶け込むオカメザサの群生」など、思わぬ新高山の自然の不思議を発見できます。

新高山は自然の古から未来への声が聞こえる、見える魅力いっぱいの優しい空間です。新高山で自然とふれあい、自然を見つめてください。

春 初夏



ヒトツバ



アオイトトンボ

夏



コガネグモ



オカメザサ群生



ホタルブクロ

秋



アキノキリンソウ



アキテンナンショウ



ヤマザクラに寄生するモミジ

秋冬



ヒサカキ



ナツハゼ(がんす)



ヤブニツケイ



連歌石碑



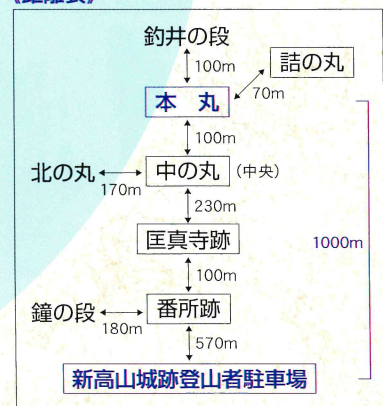
サルノコシカケ

◎里山の自然～里山の秘密～

里山とは「人間が生活していく上で、薪や炭の確保をしたり、木の葉を堆肥にするなど生活の一部としてきた山」のことです。そこには人間が山に手を加えることによって、生息することができた動植物が存在していました。里山では人間も自然界の一部として組み込まれ、生態系の中で生き、自然と動物と人間が共に共存し、有益な関係を築いてきたのです。

現在、地球温暖化防止が地球的な課題となっていますが、里山はそのようなグローバルな意味での役割も果たしてきていたのです。里山の自然に学び、持続可能な地域づくりを進めましょう。

《距離表》



★遊歩道や道沿いの植物は、新高山城跡を守る会の皆さんによって整備・保護されています。採集はできません。

★彼らが、これからもずっと私たちと生き続けられるように、そっと探し、やさしく観察してみませんか。

【注意】遊歩道は山道です。長袖・長ズボン・滑りにくい靴・帽子を着用し、ハチの安全対策のため黒い服装は避けましょう。